令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典B	単位数	2	年次	3	ユニット数	1.5	必選別	選
校内名称			選択古典								
使用教科書			古典Ｂ改訂版古文編・漢文編（大修館書店）								
副教材等			新精選古典文法（東京書籍）、精選漢文（尚文出版）、古文攻略マストアイテム７６（桐原書店）、読んで見て覚える重要古文単語３１５（桐原書店）、新国語総合ガイド（京都書房）								

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典とは、歴史の波に揉まれながらも残った、偉大な先人達の素晴らしい言葉であり、現代の我々が読んで未来への糧とするものである。いろいろな感想を持ちつつ様々な価値観を知り、人間について深く考えてほしい。

選択古典の時間では、主に問題演習を行う。センター試験や主要私大の過去問を中心に、根拠をもって答えを出す練習を積んでいく。といっても、古典の学習であることには変わりなく、内容を読み味わうことも重視する。その為にも、今まで通り音読や暗唱をし、辞書をしつこく引いてもらいたい。音読や暗唱は古典のリズムや言語感覚を身体で捉えることに繋がり、読解のための一番の近道でもある。また辞書は、言葉の持つそれぞれの歴史や物語を覗くことができ、教養を深めるためにも大切である。

決して楽ではない内容だが、一年間真剣に古典と向き合う中で、受験対策にとどまらず、人間として成長してほしい。

2　学習の到達目標

共通テスト、個別試験に対応できる古典読解力を持つ。
豊饒な古典の世界にふれたという実感を持つ。
社会に出ていく上で恥ずかしくない教養を身につける。

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典的文章に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。			文章を的確に読みとり、問題文で問われていることについて分析し、正確に理解している。	言語や古典文学について理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、提出物			定期考査、小テスト	定期考査、小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度である。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容 文理学科文科 1.5ユニット	主な評価の観点 a	b	c	d	e	単元(題材)の評価基準	評価方法
前期中間考査まで	問題演習①	センター試験・主要私大の過去問などに取り組む。	○				○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 e：文法知識を覚えている。	授業態度 提出物 定期考査
前期期末考査まで	問題演習②	センター試験・主要私大の過去問などに取り組む。	○				○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 e：文法知識を覚えている。	授業態度 提出物 定期考査 小テスト
		文理学科文科 1.5ユニット							
後期中間考査まで	問題演習③	センター試験・主要私大の過去問などに取り組む。	○			○	○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 d：習得した文法知識、句形を使い文を読むとはどういうことかを理解している。 e：文法知識を覚えている。	授業態度 提出物 定期考査 小テスト
後期中間考査以降	問題演習④	センター試験・記述試験対策				○	○	d：習得した文法知識、句形を使い文を読むとはどういうことかを理解している。 e：文法知識を覚えている。	授業態度 提出物 小テスト

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※原則として一つの単元（題材）に取り組む毎に全ての観点で評価するが、それぞれでとりわけ重点的に評価を行う観点に○をつけている。なお、上記以外で試験範囲を追加する場合がある。